

～新型コロナウイルスの感染を防ぐために～

コロナ禍において、面会制限でご家族とも会えない状況や、外出自粛により自宅で過ごすことが多くなり、認知症の方も症状の進行が危惧されております。

なかなか元の生活に戻る事が難しい状況ですが、日々の生活をしっかり見つめて行動するように努めましょう。

オレンジロードつなげ隊も活動ができない状況が続いていますが、また皆様とお目にかかれる事を念じながら、感染症対策に心がけ今は自粛に努めます。

～厚生労働省ホームページより～

感染リスクが高まる「5つの場面」

* 飲酒を伴う懇親会等



- ・飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- ・特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- ・また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。

* 大人数や長時間におよぶ飲食



- ・長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事と比べて、感染リスクが高まる。
- ・大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。

* マスクなしでの会話



- ・マスクなしに近距離で会話することで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- ・マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- ・車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。

* 狭い空間での共同生活



- ・狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- ・寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。

* 居場所の切り替わり



- ・仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- ・休憩室・喫煙所・更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。

～新型コロナウイルス感染症の予防例について～

*介護事業所での取組

- ・来場者受付における手指消毒器、非接触型体温測定器の設置
- ・情報端末機器を使用したオンライン面会
- ・デイホール、相談室、相談場（オープンスペース）における飛沫防止カーテン・ボード等の設置 等



オレンジロードつなげ隊 隊員紹介 8



私は東舞鶴にある「オンブラーजू矢之助」という介護事業所に勤務しています。今年度からオレンジロードつなげ隊に参加し、様々な活動を通して認知症になっても安心して住める地域づくりに貢献できればと考えています。

認知症の方との日々の関わりから様々なことを学ばせていただいております。会話やレクリエーション中の表情、入浴や食事中などの様子から思いを読み取るように心がけています。

住み慣れた地域でその人がその人らしく安心して生活ができるよう、お手伝いができればと思っていますので、よろしくお祈りします。



私は、京都府信用漁業組合連合会という金融機関で勤務しています。

本会のお客様の中にもご高齢の方が多くおられ、その中には認知症のため物事の判断が難しくなったり、不安を感じやすい方もいらっしゃいます。日々の業務では、そのようなお客様にも安心してお取引いただくため、わかりやすい言葉でゆっくりと説明し、内容を理解していただくように努めています。時には対応したお客様の不安を和らげることができず、どのように接すれば理解していただけるのか困ったこともあります。

オレンジロードつなげ隊の活動を通して、実際にどういふ声かけが効果的なのかなど、私たちの地域で認知症の方々が安心して生活できるよう、やさしく見守る”和”をつなげていけたらと思っています。

- 編集後記 -

京都府においても、2回目の特別措置法に基づく緊急事態宣言が発出されました。

昔には新型コロナウイルスに関する情報が溢れており、ネガティブな情報に触れることによる疲労感を覚えるようになってきました。

オレンジロードつなげ隊の新隊員から、活動をしたいという声が聞こえてきていますが、今はこの自粛期間を無事乗り越え、活動再開の折には、認知症になっても暮らし続けられる地域づくりの一助になればと心待ちにしています。

《編集担当班》

発行：中丹東オレンジロードつなげ隊

【事務局】

京都府中丹東保健所
保健課

中丹東地域包括ケア推進ネット
中丹東オレンジロードつなげ隊

心でつなく、地域でつなぐ
“認知症”

認知症になっても安心して暮らせる
社会の実現をめざしています